

11

アジア・スマート産業都市・北九州

—— 北九州市、福岡県、日本
2010年～

公害克服の経験・知見をベースに、環境ビジネスモデルを構築し、アジアでの産業発展を目指す

Key Issue

日本の高度経済成長期以来、北九州市は、工業集積に基づく環境汚染対策が重要な課題とされており、環境との両立の中で厚長大産業から産業構造への転換を図ることが求められた。

このため、北九州市は、長い年数をかけて達成した大気汚染、水質汚濁などの公害克服の経験とノウハウを、国内外に展開可能な環境技術として蓄積を図りつつ、地域産業の基盤形成に結びつけることが必要であった。

Project Approach

地域資源を発展させるプロジェクトに注力

地域資源（経験、技術、人材等）を活かしつつ地域課題（エネルギー、資源等）の解決を図ることに着目した試行的・実証的なプロジェクトを実施した。

地域において集積・蓄積できた環境分野に関する技術やノウハウを、新たなエネルギー循環・リサイクルの分野におけるビジネスモデル構築・提案へと発展させることに成功した。

蓄積した技術・ノウハウ・基盤をパッケージとし海外輸出へ

省エネや省資源などの環境技術・ノウハウについて、アジア低炭素化センターが中心となり、様々な環境技術を総合的都市ソリューションとして技術輸出を行ってきた。

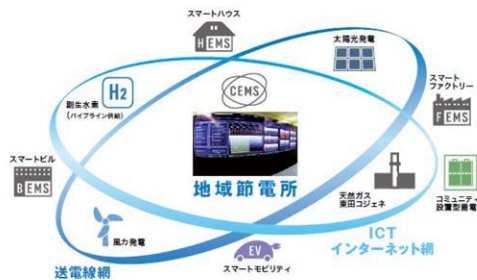
資源立地型の従来型の産業都市から、環境技術を開発提案するスマート産業都市へと転換を図り、アジアの低炭素社会の推進につながる環境技術の輸出を進めている。

北九州エコタウン
(総合環境コンビナート・響リサイクル団地)の全景
出典:時事

(北九州エコタウン事業)
本事業は、あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、最終的に廃棄物をゼロにすること(ゼロ・エミッション)を目指し、資源循環型社会の構築を目指した事業である。
大学・研究機関・企業の連携のもと、基礎研究から技術開発・事業化に至る環境産業振興の取組みが進められた。

(北九州スマートコミュニティ創出事業)
本事業は、地域のエネルギーを地域で無駄なく賢く使い切るため、需要家(家庭、事業所)の参加するエネルギーマネジメントを構築した実証プロジェクト。
スマートコミュニティは、市域全体へと広がりを見せつつある。
出典:北九州市

北九州スマートコミュニティ全体イメージ



Data

(北九州スマートコミュニティ創出事業)
面積 120ha (八幡東区東田地区)
事業主体 北九州スマートコミュニティ創造協議会(北九州市、民間企業、大学・研究機関など77団体)
主な導入施設 発電施設(風力、メガソーラー、バイナリー発電)、地域蓄電システム、CEMS「地域節電所」、BEMS、HEMS、FEMSほか

(北九州エコタウン事業)
面積 実証研究エリア 16.5ha、総合環境コンビナート25ha(うちリサイクル団地 6ha)
事業主体 北九州市、民間企業 25社
主な導入施設 大学・企業研究所、リサイクル・リユース工場、研修施設 など

To the Next Phase

地域課題の克服を経験した北九州市は、様々な取り組みを並行して発展させてきた。
この成果は『市民の誇り(シビックプライド)』の醸成へとつながり、スマート産業をまちの『文化』として定着・発展させていくことを目指している。

